

シンポジウム「アート市場への挑戦～障がい者の芸術表現の可能性」

Symposium on 'Challenging the Art Market: The Potential for Artistic Expression by Disabled People'

2014年1月11日(土)、りそな銀行大阪本社講堂でシンポジウム「アート市場への挑戦～障がい者の芸術表現の可能性」を開催した(主催:大阪府・都市研究プラザ、協力:りそな銀行・りそな総合研究所・毎日新聞社・NPO法人都市文化創造機構、後援:厚生労働省)。

近年、障害者の芸術表現に対する関心と取り組みが広がりを見せ、海外からの注目度も高まっている。大阪府は2008年度から「アートを活かした障がい者の就労支援事業」を開始し、作品を“現代美術”として評価するとともに、アーティストとしての自立可能性を公民協働で模索してきた。都市研究プラザは当該事業の開始時から参画するとともに、大学の戦略的研究(新重点研究)「ソーシャルデザインの産業化による大阪再生」の一環として、インクルーシブ・カフェ(ネットワーク構築を企図して2013年5月～10月に毎月1回)等を開催してきた。これまでの成果と課題を検証しようとの目的でシンポジウムを実施したところ、関西圏のみならず岩手、東京、横浜、石川、高知、熊本、宮崎などから約400人の参加があり、会場は熱気に包まれた。

前半は、村木厚子氏(厚生労働事務次官)と今中博之氏(社会福祉法人素王会理事長)との対談を行った。村木氏は自身に起こった困難な出来事にふれ、仕事をし、自立できていると思っていた自分が、ある日突然、何もできない状況になり、家族や友人、様々な専門家に支えられて自分は存在していることを再認識したと、自らの経験に引き寄せながら「自立」について語った。さらに、社会との接点をもちながら自分の能力を発揮できることで人間としての尊厳は保たれる等、障害者の芸術表現の意義について示唆に富む対談であった。



村木厚子氏(撮影:ヨシダダイスケ)

後半は、笠谷圭見氏(PR-y主宰)や藤原明氏(りそな総合研究所 プロジェクト・フェロー)、南郷宏氏(美術評論家)、山口孝氏(ギャラリーヤマグチクンストバウ代表)によるパネルディスカッションを行い、「府の事業を継続していくには多様な人々を巻き込むことが大切」「障害者の作品を発表する際、分野を超えたコラボレーションによってクオリティを高めるべき」等の発言があった。

モデレーターを務めた佐々木雅幸(都市研究プラザ所長)は、「まだ評価の定まっていないものをどう評価するか、これには多様な方法が考えられる。大阪で深めていくことと、大阪から広げていくことの両方が必要である」と締めくくった。

この場での議論をふまえ、多様な人々の協働を促していくよう、今後もインクルーシブ・カフェ等を継続開催していく所存である。

■川井田祥子(都市研究プラザ特任講師)



パネルディスカッションの様子(撮影:ヨシダダイスケ)

This symposium (organized by Osaka Prefecture and the Urban Research Plaza) was held on January 11, 2014 (Sat.) at the auditorium of the Risona Bank Osaka's headquarters. In recent years interest and undertakings concerning artistic expression by disabled people have spread widely, and the interest level has heightened even overseas. In 2008 Osaka Prefecture initiated an 'employment assistance project for the disabled using art,' and the Urban Research Plaza has participated in the project since its start. About 400 people from all over the country took part in this symposium intended to give evidence of the results and remaining issues of the project.

The main speaker was Ms. Atsuko Muraki, Vice Minister, Ministry of Health, Labour and Welfare, and the audience was entranced by her talk based on her own experience. Based on the discussions at this symposium, there are plans to continue encouraging the cooperation of many different kinds of people by for example opening an 'inclusive café'.

■ 船場博覧会 2013 SEMBA EXPO 2013

2013年11月19日(火)から24日(日)までの6日間、今年も船場博覧会が開催された。大阪の歴史的都市である北船場の活性化イベントは、船場アートカフェ主催の「船場建築祭」から数えて8回目となる。今年は堺筋の沿道企業で構成する「堺筋アメニティ・ソサエティ」と、大阪市HOPEゾーン事業に基づき組織された「船場地区HOPEゾーン協議会」に、2010年まで単独で開催してきた「まちのコモンズ」を支えた人々が加わり、新しく「船場博覧会実行委員会」が組織された。都市研究プラザは協力というかたちで関わっているが、北船場のまちづくりに携わる組織と人が結集する、地域主体のイベントとしての性格をより一層深めたといえる。

イベントは多彩な35のプログラムによって構成され、道修町や三休橋筋といった性格の異なる街路を歩くまちあるきツアーや、近代建築やタワーマンション、そしてオープンスペースなどを会場にしたまちなかコンサート、そして北船場の貴重な文化資産である数々の歴史的建築物を会場にした茶会やワイン教室などが開催された。

参加者は延べ約2500人を数え、アンケートに協力した人の85%が「良かった」と回答、地域の人々による企画・運営も手慣れ、秋の北船場の都市イベントとして定着したといつてよいだろう。

■高岡 伸一 (都市研究プラザ特任講師)



老舗の店舗での落語と講談の寄席

The SEMBA EXPO 2013 was held over six days from November 19 through November 24 in order stimulate the Kita Senba area and as many as 2,500 people took part.

The event consisted of 35 separate programs including walks through the neighborhood, street corner concerts, and hands-on classes held in historic buildings.

85% of people responding to a questionnaire answered that the expo 'was good' and 93% responded that they could feel the 'charm of the neighborhood' in Kita Senba.

■ オープンナガヤ大阪2013 Open Nagaya Osaka 2013

今回で3回目となる「オープンナガヤ大阪2013」が2013年11月23日(土)～24日(日)にオープンナガヤ大阪実行委員会(豊崎プラザ他10数団体)の主催により開催された。

このオープンナガヤ大阪は、豊崎プラザでの長屋再生を機に、大阪の居住文化を活かしたまちの再生にむけたネットワークづくりを目的に開始されたもので、イギリスの「オープンハウス・ロンドン」に触発され、豊崎プラザ(藤田忍教授(生活科学研究科))が中心となって始まった企画である。

前回まで豊崎、阿倍野、野田等のエリアで良好な状態で現存する長屋や新たな生活様式にあわせて改修した長屋・古民家等を所有者・居住者の協力のもと開放してきた。今回は大阪市内合計20か所に会場が増え、見学やまち歩きが行われた。事前にFacebook、twitterを用いた広報やガイドマップの作成・配布が行われ、天候にも恵まれ、約500名近くの市民、建築専門家、学生が参加した。

このうち、昔ながらの町並みにある寺田町・須栄広長屋では、再生を終え、すでに居住者のいる住戸を見学することができた。活用を検討している長屋所有者の方も来られ、学生たちによる案内のあと、共用居間のこたつで、生活感あふれる長屋の住まい方を直に感じながら、ゆったりと晩秋のひと時を過ごしていた。

こうした活動の継続により、大阪長屋の価値の再認識が進み、市民によるまちの活性化につながっていくことが期待される。

■佐藤 由美 (都市研究プラザ特任講師)



須栄広長屋でくつろぐ来場者たち

On November 23 and 24, the event 'Open Nagaya Osaka 2013' was held, organized by the event's executive committee in which the Toyosaki Plaza is prominent. On those days 20 different nagaya were made open to the public and about 500 people took part.

This event was first held in 2011 with the goal of creating a network for urban revitalization making use of Osaka's housing culture, and this was its third year. People who visited the nagaya were able to well appreciate how the nagaya are filled with a sense of life. It is anticipated that undertakings like this will lead to vigorous neighborhoods in the future.

■The Workshop on Social Justice and the City in Hongkong

都市と社会的公正に関する国際ワークショップ（香港）

2013年12月4日（水）から6日（金）、香港浸会大学地理学科の主催、都市研究プラザ後援で、恒例の香港サブセンターのアカデミックフォーラムである、“The Workshop on Social Justice and the City（都市と社会的公正に関する国際ワークショップ）”が開催された。

■ワークショップ

ワークショップでは、現在都市社会における「社会的分極化」や「格差問題」に取り組む方法と理論の再検討する目的を有している。そのため、「社会的排除」などの範囲を超え、より構造的な背景が着目され、包括的に都市生活空間を考察しなおすため、社会歴史的なコンテキストも視野に入れている「社会的公正」という概念が採用されていた。このように、理論と方法論が最も中心となっていたが、実証的な検討も充実しており、今回は東アジアの諸国のみではなく、欧米の大都市やアフリカ、インド、トルコ、ベトナムまで幅広く現在都市における社会的課題の現状について詳細に紹介された。

都市研究プラザから報告者が3名参加し、大阪のインナーシティにおいてのソーシャルミックスの必要性について、水内俊雄（都市研究プラザ副所長）・コルナトウスキ・ヒュエルド（都市研究プラザ特別研究員（若手））が、また、大阪の中崎町におけるジェントリフィケーションについて、ヨハネス・キーナー（都市研究プラザ特別研究員（若手）/文学研究科後期博士課程）を報告し、議論を行った。そのほか、著名な人文地理学者である Don Mitchell 教授（シラキュース大学）をはじめ、社会学者や政治学者も多く参加しており、議論が学際的な展開まで盛り上がった。



ワークショップの参加者の記念撮影



エクスカージョンの様子

■エクスカージョン：Sham Shui Po 周辺地域の巡検

ワークショップの最終日（6日）の午後に、会場を離れ、香港のインナーシティを代表する Sham Shui Po 地域へのエクスカージョンが行われた。まず、ワークショップの主催者である香港浸会大学の鄧永成教授から本地域の形成過程についての説明を受けながら、街を散策した。草の根コミュニティが実際にどのような日常生活を送っているかがポイントであり、最終的に個別グループに分け、住宅困窮におかれている世帯を訪問し、本人の意見や希望などについての、非常に充実したお話ができた。このように、現実に深い洞察ができ、現場から肉声を参考にし、これからの「ソーシャルジャスティス」のあり方と社会的不公正との取り組み方について、より実践的に考えさせられる貴重な機会となった。

■ヒュエルド・コルナトウスキ（都市研究プラザ特別研究員（若手））

■ヨハネス・キーナー（都市研究プラザ特別研究員（若手）/文学研究科後期博士課程）



「ルーフトップ小屋」訪問の様子

From 4 to 6 December 2013, under co-sponsorship of the URP Hong Kong sub-center, the Geography Department of Hong Kong Baptist University organized an international workshop on "Social Justice and the City". The aim of this workshop was to expand on the concept of social justice and to further consider what methodological/theoretical opportunities this concept holds amid the current rising inequalities especially among fast-growing Asian cities, and also Western and African cities where the urban context seemingly differs. Many academics from geography, sociology and political studies joined, which contributed greatly to the interdisciplinary discussion of this topic.

On the last day, we went out on an excursion to observe the current conditions of social inequality in the inner-city area of Sham Shui Po. Finally, the visits to households living in unstable conditions provided an unique chance to contemplate on how a practical realization of social justice might take form.

■東アジアのホームレス支援から都市の再生を学ぶ

1998年、当時大阪市内でのホームレス調査を私は初めて経験した。聞き取りによるニーズ調査などを経て、ホームレス施策が一気に動き始めた。以降、ホームレス自立支援センターや、全国のNPOによるホームレス支援の現場で15年間、研究や調査を行ってきた。同時に、東アジアでは1998年IMF危機の際、特に韓国と香港において、ホームレス問題がやはり注目され、台湾も含め、日本と同時進行でホームレス支援の現場に、科学研究費助成事業等を用いて関わってきた。

施策としても、研究の蓄積としても、先行者がいない領域で採択された海外科研であった。折から同時に採択された一連の21世紀COEやグローバルCOEプロジェクトに集う若手研究員にとっても、取り組み甲斐のあるテーマとして、東アジアをフィールドに多くの調査や研究が可能となった。グローバルCOEの社会包摂ユニットの主翼を担っている。

最後のセーフティネットとして、福祉の分野からホームレス施策は考えられがちであるが、実はハウスレスをなくすための施設と住宅の間に位置する「中間ハウジング」への支援が肝要となること、また社会とのつながりの再生ということでの就労支援が必要となること等、総合的包括的な生活支援が求められるものである。さらに、「中間ハウジング」の資源は、インナーシティに多く存在し、その活用を通じて住宅資源の活性化も期待でき、都市再生のもうひとつのあり方として、今後の都市経営の方向の一つともなりえるものである。

このような様々な観点からも大変やりがいのある研究領域であり、都市研究プラザの今後の都市研究の一翼を今後も担っていくと期待される。

■水内俊雄（都市研究プラザ副所長）

■URP・Information

平成26年度 大阪市立大学国際学術シンポジウム

「包摂型創造都市と文化多様性」開催のお知らせ

都市研究プラザでは、公益財団法人大阪国際交流センターとの共催により、2014年7月22日（火）・23日（水）・24日（木）の3日間、大阪国際交流センターにおいて、国際学術シンポジウムを開催いたします。

「包摂型創造都市と文化多様性」というテーマのもと、これまで都市研究プラザが行ってきた活動の集大成として第5回を数えるまでになった国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」（7月22日）及び、世界的に多くの研究者が集まる国際学術カンファレンスである、国際都市創造性学会AUC（Association for Urban Creativity）年次大会（7月23日）をシリーズで開催いたします。なお、2日目のAUC学会では、世界的に学術発表論文を募集、EARCAG学会とも連携した学術研究発表大会を行います。3日目（7月24日）には、AUC学会エクスカッションとして岡野教授による大阪市立自然史博物館・大阪市立大学付属植物園訪問も予定されております。

22日の国際ラウンドテーブル会議には、「ノーベル賞はこうして決まる：選考者が語る自然科学三賞の真実（創元社）」を執筆した、アーリング・ノルビ教授、前文化庁長官の近藤誠一氏、ユネスコ事務局長補であるフランシスコ・パンダリン氏らが、また、23日のAUC学会には、ニューヨーク市立大学のシャロン・ズーキン教授らが登壇される予定です（当日プログラム等は都市研究プラザのホームページに掲載、随時更新されます）。

■堀 裕典（都市研究プラザ特任講師）

■イベント・研究会の予定

- 1/31 第4回 国際ラウンドテーブル会議・市民ワークショップ
～2/1 …大阪市立大学高原記念館・大阪国際交流センター
- 2/1 国際小円座「質屋・質業の比較史に向けて」
…大阪市立大学田中記念館 第1ユニット
- 2/6、3/13 踊り研究会（第2期）
…船場アートカフェ 第2ユニット
- 2/8 柏原市における都市創造性研究会
…柏原市民文化会館 第4ユニット
- 3/3 第12回バンコク都市文化研究フォーラム
～4 …タイ・チュラロンコン大学 第2ユニット
- 3/8 第12回ジョグジャカルタ都市研究フォーラム
…インドネシア・インドネシア芸術大学 第2ユニット
- 3/11 特別研究員（若手）合評会
…大阪市立大学高原記念館
- 3/14 イタリア仮面劇ワークショップ in ひと花センター
～16 …ひと花センター・西成区役所
- 3/18 第8回アジア・アーツマネジメント会議
…タイ・バンコク 第2ユニット
- 3/24 URP International Colloquium ‘City and Politics’
…大阪市立大学高原記念館 第3・4ユニット

7/22～24 平成26 市立大学国際学術シンポジウム
…大阪国際交流センター

■特別研究員（若手）公募
URP 特別研究員（若手）募集要項（平成26年2月募集分）は、下記に掲載しています。<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/about/recruit.html>
■URP-Newsletter の次号発行は2014年5月の予定です。



「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が2006年4月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる場をめぐっています。2007-11年度グローバルCOE拠点「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」の実績をさらに発展させ、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/>

558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 tel.06-6605-2071
e-mail : office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長 佐々木雅幸 副所長 水内俊雄 岡野浩 富田常雄
ユニット長 1U 佐々木雅幸 2U 嘉名光市 3U 水内俊雄 4U 岡野浩

大阪市立大学都市研究プラザ ニュースレター 第22号
編集委員会 佐藤由美 野村侑香
<http://www.ur-plaza.osaka-cu.ac.jp/staff/>